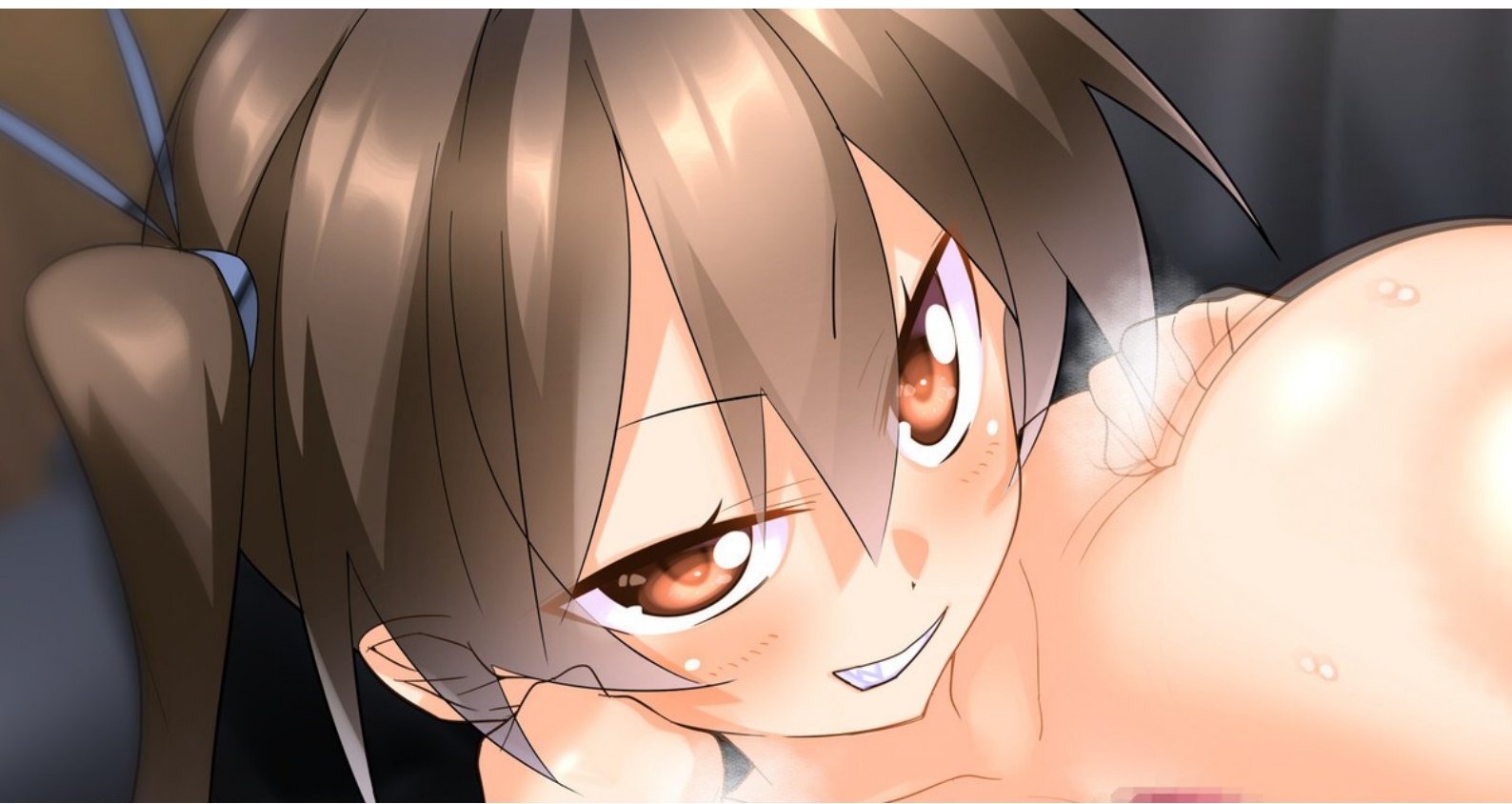




ダイエットは明日からっ！？の巻



「うわ…っ！嘘でしょ…！今月やバいかも…！」

僕は貯金通帳を見て青ざめた。今月だけでもう既に○百万円使っているのだ。もちろん、出費の原因は言うまでもなく…彼女。

「いくら親の遺産があるとはいっても…これはダメだ！このままじゃいすれ破産する！」

生きていた頃の父さんも、僕を叱ったりする人じゃなかったけどお金にだけは凄く注意してた。

お金は無くなる時は一瞬だから。

いつもそう言っていたな…。よし、決めた！
今日から節約する！



だいたい、僕が誘惑に負けて彼女にお金を
ホイホイ払ってしまっからいけないんだ。

だから、これからはどんな誘惑があろうが催促
されようが絶対に我慢する！負けない！

毎日3回はしてもらっていたパイズリも
これからは週に一回……いや、それは無理だな……
ぐっ……、2回まででしよう！よし！

それならきつとだいぶ節約出来るぞ。

パタパタパタ。

そう考えていると廊下から足音が聞こえてきた。
彼女がこっちに来るらしい

ちようどいい、この際はっきり言ってやる。
もう誘惑なんかには負けないって。

ガチャっ。

「来たな、今回はちよつと話が…ぶっ！」



「あん？なんだよ急に吹いて」

「な…なんでいきなり裸なの…？」

「はーっ。わざわざ説明しないとわからない？
風呂上がりだからに決まってるでしょ？」

「あ…っ」

そっ、そうだった…ついさっきもパイシリして
もらってて…それで汚れたから風呂入るって…。



「30分前の事も覚えてないとか、おにーちゃんの
頭大丈夫？ボケ始まってるとるんじゃない？」

「ふ…っどっどっかく…ちょっと言いたい
事があるんだ」

「僕は今から節約する。もう誘惑なんかされても絶対に乗らないから」

ぷるんっ。

「う…っ。」



「…へえっ、そうなんだあ♥おにーちゃん
これからは私とエッチしないんだね♥」

「いっ、いや…絶対しない…わけじゃない」

「あっ♥それなら今からでも出来るじゃん♥
2回までOKなんでしょっ」

「そっそっかつー!」

確かにその通りだ!僕はなんてバカなんだろっ。
この次から我慢すればいいじゃないか!



「あはっ♥おにーちゃん目がキラキラ
輝いてる♥良かったねーっ♥」

「実はさっきからずっと我慢してて……っ!
あぁっ、もう耐えられないっ!」



あははっ♥おにーちゃんの
オチンポもっパンパンだねっ
とんだだけ我慢してるの♥

だって…っ！こんな
ぶるっぶるの…風呂上がりで
すべすべのおっぱい…っ

ずいんっ

たろ

むにゅ



おにーちゃん

うんうんぞーだねっ♥
じゃあ今回は好きに使って
いいよっ♥

眼の前でチラつかされて
我慢できるわけないっ
うう……っ！

ぐ…っ、うう…っ！手で
抑えてもらってないのに…っ
自重だけでこの乳圧っ！

上下のおっぱいに挟まれる
だけでなんて心地良い…っ
はあっ、はあっ！

ほっ、ほっ

ほっ、ほっ

ほっ、ほっ

（まるで鏡餅のように
縦に重なったおっぱい。
その間に突っ込むだけ）

（この感覚…積み上げた布団に
手を突っ込むような…あの
包まれるような気持ちよさだ）





おにーちゃんのその顔♥
マジ受ける♥さっきまで
超深刻そうな顔してた癖に♥

おっぱいの事になると
すぐ我を忘れちゃうんだから
単純だよ♥

だってもうパイズリも
出来ないかもって...っ
思ってたしっ!

でもこれからっこれから
我慢すればいいんだもんねっ!
僕って頭良いなあっ!

へっ♥まだ気づいてねーのか♥
これだからクソニートは♥
30分も我慢出来なくて

どーやってこれかッ
一週間耐えるつもりだよ♥
想像もしてねーだろ♥



ゆいっ

いぢぢ

いぢぢ

え……っ—あ……っ—
ああ……っ—!!
しっ、しまったあ……!!

今頃気づいても
おせーっつの♥ホント
おにーちゃんは宇宙一のバカ♥



まっ、また騙したなああっ！
僕を…僕をハメたなあっ！
くそっ、くそおおっ！

怒りながら一生懸命
腰振ってるし♥小学生に
簡単に手玉に取られる大人♥

ぽんっ

ずいっ

ぽんっ

おにーちゃん生きたで
恥ずかしくないの？
親の遺産食い潰して♥

ほらっ、こんな風にバカに
されてもオチンチンが気持ち
良くてたまらないんですよ♥



ううっ！射精るっ！
射精るううっ！
うあああっ！

おっっっ♡
あはっ、射精しやがた♡
おーおー射精る射精る♡

ホントおにーちゃん
射精だけは湧き水の如く
無限に溢れ出るよね♡

んんんんんん！
黙れええええ！
んんんん！





あーあ♥せうかく
お風呂に入ったのに台無し
くっさい精液付いちゃった♥

はあ...う、はあ...うー！
ぐ...ううう...ううー！
はあ~~~~~うー！

さてさ♥んじや私は
もう一回お風呂に
入ろーかなあ？♥

おにーちゃんがしたいなら
続けてもいいけど？
どーする？後一回だよあ？♥



(コイツもちょーっとだけ
反抗っつーか、意志を見せる
ようになったな...)

ううう...っ！自分で
押さえつけるのをさらに
乳圧が...何倍にも...っ！

すけえ

すけえ

すけえ

あんま乱暴に扱っなよ？
ん...っ♡気に
入らなかつたら蹴るぞ♡

はあっ、はあっ！
乱暴に扱っ...もんかっ！
このおっぱいを...っ！



さっきから凄い音してる
んだけど♥おにーちゃんの
汚い精液のせいだっ♥

わかるっ♥おっぱいの
中でぐっちょぐっちょ音立て
ながら動くオチンチンが♥

ぐっちょぐっちょ

ぐっちょぐっちょ

ぐっちょぐっちょ



ニヤッ♡

くっ♡だろーねっ♥
おにーちゃんの顔
今にも蕩けそったい♥

はあっ、はあっ！
わかるよ…っ！
すっげえ気持ちいいー！





あぁっ！ダメだっ！
もう射精る…っ！鏡餅
パイズリが気持ち良すぎて…

ほろほろっ、これが
今週最後の一発だよ♡
悔いのないよーにっ♡

はっちゃん

だっ

おっ

金玉の中心に全部
空っぽにするつもりで
射精しちゃっ♡

おかしなっ、おかしなっ…
あっ、あっ…
射精る射精るっ…イッちゃっ…



んっっっ♡
うはっ♡♡
さっきよりも凄っ♡

2発目でなんでこんなに
射精なんだよ♡
マジありえねー♡♡

べっはっ

おっ

べっはっ

どっはっ

はあっ、はあっ！
だって…っっっ！
最後と思ったの…っ！

うっっっっ！
最後の一滴まで全部…っ
絞出すよっ！

あ〜…っくせ〜♥
もっだろだろになっちゃった
じゃねーか♥

これだけ射精せぼりゃ
金玉も空っぽになる
だろーよ♥ククッ♥

ぐちゃん

べちゃん

じゅん



は〜ん

はあ…っ、はあ…っ！
やっぱりパイシリ
最高…っっ！

もっこのためだけに
僕は生きてる気がする…っ！
他には何せ…っ！

1時間後



「…とはいったものの…これから一週間
僕は我慢しなくちゃいけないのか…」

自分で決めた事とはいえ、正直あまりに辛い。
ぶっちゃけ今からでも撤回したい…。

でも、彼女に言い切ってしまった以上は
さすがにカッコ悪いし…。

そんな事を考えていると着替えた彼女が
戻ってきた。

「ふっふーん♥お・に・い・ちゃ・ん♥
実は相談があるんだけど…」

「いっ、一応言っとくけど誘惑してもダメ…
だからな。一応。もう一回しちゃったから」
「それなんだけども♥」



「ぶっちゃけ、明日からで良くない？」

「え…明日から？」

「そっ♡節約なんてキツい事、決めた
その日から始めたら辛いに決まってるよ♡
長続きのコツは適度に自分を許す事っ♡
どっかの班チヨもそう言ってたし♡」



「な…っ、なるほどお………!!
確かにその通りかもっ!!」

「よおしっ!!節約は明日からだ!!」

「ようじ…っ、そうとなれば早速
3回戦だーっ！」

「はーはーっ♡えいっ♡♡」

「ほんと「イツヤッぱちるわねーわ♡
…まっ、私も資金源が無くなるのは
困るからなア♡」」



「こうして僕の節約生活は明日からに
変更となった。そしてその明日には来週になり…
来月になり…」

その明日は結局いつまでも来なかったのであった。











































